

新潟県
三条市



三条商工会議所産業振興課長
中川 恵一郎さん



三条ブランドとして売り出している金属製品
を手に取るベトナムの研修員たち

ものづくりを世界に
発信するチャンスに!

三条市といえば包丁や作業工具などで有名なものづくりの街。伝統的な鍛冶から精密機械加工まで、さまざまな金属加工技術を受け継ぎ、その品質は海外からも高い評価を受けています。

2012年、アジア10カ国の政府関係者を受け入れ、この地域の技術や人材育成のノウハウを学ぶJICAのセミナーが行われました。それをきっかけに、ベトナム南東部のバリア・ブンタウ省へ金属産業の発展を支援する取り組みが始まりました。金属加工技術や産業振興策などを同省の職員に学んでもらうと

同時に、職業訓練校や企業との関係者などに品質管理や人材育成、ものづくりに対する精神を紹介しながら交流を図っています。

この国際協力を引っ張っているのが、三条市の中小企業を支える三条商工会議所。初めての経験で大変ですが、とてもやりがいがあります。「三条市の技術の高さはもちろん、規律正しい日本人の精神に感動した。ベトナム

の“先生”として、いろいろ教えてほしい」という言葉をいただき、自分たちの技術・地域にあらためて誇りを感じました。

今後この活動が実を結び、三条市のものづくりを学んだバリア・ブンタウ省の製品が世界各地に広まり、さらに同省で三条市のファンができて私たちの製品が流通すれば、さらに活動の価値が高まると期待しています。

香川県
丸亀市



FUN FANプロジェクト
出渕 光一さん



丸亀市のうちわ職人がラオスを訪れ、生産技術を伝える。品質の安定が課題だ

伝統の技を未来へと
受け継ぐ!

日本の夏の風物詩、うちわ。その生産の9割を担っているのが丸亀市です。江戸時代から続く伝統工芸品である丸亀うちわを使って、“香川らしい国際協力”を始めようと動き出したのが3年前。その舞台はラオスです。竹細工を売って生計を補っている農家が多いため、現地の布や紙を使って“ラオスうちわ”を作れないかと考えました。

お土産として売り出せるよう、うちわ作りの技術を教えたり、デザインの開発や販売網の開拓も進めています。「うちわ作りで生計を立てられるようになりたい!」と意欲的に取り組

んでくれる生産者がいること、生産者に子どもが生まれて“ウィー(うちわ)ちゃん”と命名してくれたこと、2013年にラオスのトンシン・タンマヴォン首相が安倍晋三首相にラオスうちわを手渡してくれたこと。うれしかったことはたくさんあります。

最初はラオスのことを全然知らなかった丸亀市の人々も、今ではすっかりラオスのとりこ。

シンダートというラオス式焼肉用の鍋を買ってきたり、ラオスの布のうちわに取り入れてみると、一気に身近な存在になりました。日本では伝統工芸の後継者不足が深刻な中、うちわ作りの技術が世界で継承されることは希望になります。地域の未来は日本の中だけではなく、“グローバル”な視点で考えることが大事だと考えています。

一人一人の世界が
広がった!

滝 川市は道内屈指の稲作地帯で、菜種やリンゴ、タマネギ、アスパラガスなど多種多様な農作物の生産地です。その強みを生かして国際貢献ができればと、200

0年にマラウイから農業技術の研修員の受け入れを始めましたが、最初は協力してくれる農家さんを見つけるのがとても難しいものでした。研修員が市内を歩いていると、「なぜ海外の人がいるの!?!」という特別な目で見られていました。

しかし、毎年さまざまな国から研修員を受け入れるようになり、地域の人たちも変わってき

ました。農業指導でマラウイに行った農家さんからは「ここで農業をして人生を終えるつもりだったのに、あんな世界があるとは夢にも思わなかった」、地元の高校生からは「小学生の時にマラウイの研修員と学級菜園に取り組んだことでアフリカが身近になった」などの声が聞かれるように。道で研修員に出会うと手を振ったり、お店で親身に対応したり、小さな自治体だからこその心温まる受け入れが少しずつできるようになりました。

鏡に映して初めて自分の姿が見えるように、国際協力は自分たちの暮らしを振り返り、地域の将来を考える大きなきっかけになります。滝川市も少子高齢化などさまざまな課題を抱えていますが、世界の人々と共に、豊かな明日を目指して歩み続けたいと思います。



アフリカの研修員に、農産加工品の一つとしてリンゴジュースの製造方法を指導

北海道
滝川市



滝川市総務部国際課長
山内 康裕さん

丸亀市のうちわ職人がラオスを訪れ、生産技術を伝える。品質の安定が課題だ

アフリカの研修員に、農産加工品の一つとしてリンゴジュースの製造方法を指導



特集 地域発の国際協力
ニッポン魂が生きる

国際協力で
地域も元気に!

違う国の文化を知り、自分たちの地域の魅力を再発見できる機会にもなる国際協力。日本の地域に生まれた変化とは?